



秋の行事終わる

文化祭表彰

| 合唱 | |
|--------|-------------|
| 中学最優秀賞 | 3 B |
| 優秀賞 | 2 C・3 A |
| 優良賞 | 1 A・C |
| 高校最優秀賞 | 2 F |
| 優秀賞 | 3 C |
| 優良賞 | 2 A・3 D・E・F |

| 演劇 | |
|-------------|-----|
| 中学アカデミー賞 | 1 年 |
| (新設) 優秀パート賞 | M 3 |
| グランプリ | H 1 |

| 展示 | |
|-----------|-----|
| 学年部門最優秀賞 | M 3 |
| クラブ部門最優秀賞 | 天文部 |

文化祭によせて

校長 村田源次



人間に関する定義は色々ありますが、人間は創作するものであると言えます。今日の半導体の研究、コンピュータの進歩、バイオテクノロジーの開発等々のお蔭で物質面の発展は人間の精神面に於いても大きな影響を与えています。この創造力のおかげで人間は進化し今日の文明を作り上げてきたのです。次の世代を担う青少年は現代文化から更に新しい文化を引き出すこ

とを考へなければならぬと思います。常に諸君にお話ししています様に、人間は神様がご自身に似せて創造されたものであり、ご自身の創造された天地を常に新たにす使命をお与えになつています。この使命とは精神生命即ち知性が与えられていることです。私たちはこの尊い価値を認識して紙から与えられた知性を引き出す様な努力しなければなりません。「創造への挑戦」立派なテーマでした。各自に当てられた知性に挑戦してその学年なりの創作があらゆる分野に展示されなければなりません。学校に於ける文化祭は未来社会発展の準備でなければなりません。若

しも学校の文化祭がマンネリ化したという批判があるとするならば、知性の働きを疎かにしたと言ふことである。即ち考える事を止めたということなのです。伝統に従つただけのことです。これでは各自の知性に挑戦していません。又、技術面だけが進歩して内容が薄くなつてもいけません。充実した内容、これは知性の働きの必要です。「今年度の文化祭は終わった。これから次の文化祭の準備が始まる」と皆さんの最後の挨拶にありまます。つまり、毎日の積み重ねが大事です。学生がその本分である勉学を忘れては新しい展望はひらけて来ません。機械には心がありませんが人間の作った文化には心があります。この心を通して共に考え、共に働いた所に文化祭の意義があります。洛星には自由の雰囲気があると言われています。これが新しい創作を生み、洛星の文化祭、体育祭がユニークであると言われる所以があります。この雰囲気大切に常に新しい知性を発揮する文化祭、体育祭であつてほしいと願っています。

今年文化祭で(形式上だけとはいへ)主権を高くに奪われたせい、高IIに今ひとつ活気がなく、ゆえに全体的に盛り上がりに欠けたようであつた。まず、デコレとアトラクに關してだが、今年は大流行したブームになつたものが少なかったせい、各クラスバラエティに富んだものとなつた。デコレは1パターンしか作らないクラスが多かつたが、Fクラスの「北斗の拳」のように精巧なものからCクラスの「未来くん」のような大胆不敵なものまで、それぞれクラスの特色がよく表れていた。応援優勝だつたEクラスは「独眼竜政宗」という題材の選択と、担任の



第36回体育祭

先生方を使ったギャグを取り入れたわかりやすいアトラクストーリーやテンポのない仕上りであつた。惜しくも応援優勝を逃したFクラスは、「北斗の拳」から「金八先生」への展開の早さや、寺井先生の熱演が光つた。逆にDクラスは、ストーリーの主旨がはつきりせず、ダラダラとしたものとなつてしまつた。又、Dクラスは応援団も学ランを着用せず、やや軟派な感じを与えたのもマイナスだつたようだ。競技については、中高共にCクラスが優勝した訳だが、特に高校は大接戦で、最後の学年別リレーではつと未来くんのハリボテをかぶつていた田村先生を始め、大いに盛り上がりつたのだが、例年のごとく後の方で寝ていた連中が現れたのは、もはやどうしようもない伝統なのだろう。

体育祭成績表

| 高 | 校 | 中 | 学 |
|----|--------|----|--------|
| 優勝 | C 797点 | 優勝 | C 775点 |
| 2位 | A 750点 | 2位 | D 750点 |
| 3位 | B 707点 | 3位 | B 674点 |
| 4位 | D 677点 | 4位 | A 585点 |
| 5位 | E 537点 | 応 | 援 |
| 6位 | F 434点 | 優勝 | E |

球技大会

去る十月二十九日、中学の球技大会が、三〇日には高校の球技大会が行われ、優勝はM2CとH1Dが獲得しました。筆者は高校ソフトボールに参加したのでソフトボールを中心に球技大会を振り返つてみたいと思います。夏の選手権大会で活躍した選手が顔を並べるH1Dのチーム、前評判の高かったH1B、H1Dなどの好選手が揃うチームなど、レベルの高い争いで好ゲームが期待されました。果たしてこれらのチームがほとんど勝ち残り、レベルの高い好ゲームが展開され、午前中はかなりの観客数を動員、おおいに盛り上がりました。堅実な守備、素晴らしいバッティング、各プレーに歓声があがります。午後になると、観客が大幅に減少。負けたチームの人達が帰宅してしまふのです。最後まで観戦して盛り上がりつてほしかったのですが……何れともあれ、ソフトボールを見る限り、洛星の中では一番盛り上がる行事なのではないかと思つた次第です。

局員募集

英語の藤田先生
又は、局員まで

季節はもう冬だ。木々は葉を落とし動物達の姿も少なくなつた。しかし一方、彼らは来春に向けての準備をすすめている。生命とは偉大だ。人間の生活を向上させるのに、自然を破壊することは仕方ないかもしれない。しかし豊かな自然を子孫に残すことはもっと大切なことだと思ふ。音楽や絵画、文学などなど、人々を高尚なものから、歴史を秘めた街道や路傍のお地蔵さんなどの身近なものまで、先人の残してくれたものはたくさんある。けれどもそれらを十分に享受できなくて、悔しんだり悲しんだりしている人の姿を見ることがある。そういう人を見ると、特に子供には質の良い最高のものを残し、与えたいと思ふ。直接には何もしていないけれど、間接的に大きく物事にかかわっていることが私達にはよくある。自然破壊にしても然りである。例えば食堂での割り箸の使用などがそうだ。私達は何の気なしに割り箸を使っているが、そのために多くの森が殺されている。一人一人の使う量は少ないかもしれないが、一日に数百人もの生徒が一年を通じて使うとなると相当の量になる。しかし、ささやかな努力で少しでも事態は改善されると思ふ。つまり生徒が箸を持参するようになれば、割り箸を置かないことだ。少し面倒なことではあるが、良いものを子供達が享受できるようにするために、やってみる価値はあると思ふが、いかがだろうか。

元氣を出せ文化祭

総評

「元氣を出せ」ということとはどういうことであろうか、今年の文化祭を振り返って、その意味を考えてみたい。

今年は生徒会成立から困難が伴った。占拠などが原因でH.I.、H.I.I.がこれ、その結果、生徒会成立がかなり遅れた。一時は「今年文化祭はできないのでは？」という声も聞かれた。文化祭2日目平日で一般客の入りも少なく、ボロがなかったというところもあるが、悪状況の中での文化祭は一応成功したと見ていいのではないだろうか。精巧したとはいえないものの生徒会公約の「みんなで参加できる文化祭」からはかけ離れたものとなってしま

合唱

「近年希な卓越した合唱であった」これが一般の見解です。つまり今年は予想外に各クラスの日常の集大成が遺憾なく発揮され、全体的なレベルが上昇し、接近したという事である。しかし、「合唱」というのは一致団結し、天真爛漫に歌唱する事が大切だと雑誌である人が言っておられたが、今年の合唱ではその後者が、今年の合唱では、本来あるべき歌であること、つまり本質が欠如し、音調のみによる無味乾燥な優勝劣敗であったのが問題点であった。その辺りがこれらの課題になると思う。

音楽

展示

今年の提示は興味を持たれやすいテーマを選んだ団体が多く随分と期待させられたがそれだけに見に行くとがっかり、というのの多かった。その一つは「中学生の現状」だ。中学生は今何を考えているのか、というサブテーマを添えてあったが、多量のアンケート、例えば中学生の悩み、友達、何パーセントとか、帰ってから何をしたいか、TV、何パーセント、勉強、何パーセントとかいう上っ

は前述の通り三十三期生がとり、三十二期生にとって是非常に残念であった。三十二期生は昨年アカデミー賞をとれなかったが、受賞しないままに卒業することのないように、できたから来年も頑張ってもらいたい。

模擬店

本年度、第36回文化祭において、模擬店の部門は多くの面々で成功をおさめたように思う。それもひとえに、模擬店に多くの努力をそそいで下さった各クラブ、そして有志の方々のおかげで

演劇



今年の高校演劇には高一と高二が参加した。まず高校アカデミー賞を受賞した高一の「交換部」であるが、全体的にはよくできていた。内容は、人間をロボット化していくことの恐ろしさを、高校生がいかに分るものであった。

演技の方はうまかったが、声を出す時には観客の方を見ることが、プザーが鳴っていないうちに箱を運び出すなど基本的なところがしつかりしてなかったのが残念であった。またその他のスタッフにも不慣れな点が見られたが、全体としてはよくまとまっていた。高一の演劇関係者が、人間の権利や教育の役割について深く学習していれば、さらによい公演ができたであろう。次に高二の「署名人」であるが、内容が難しかったわりにはよくできていた。演出や舞台監督の力量のおかげだろう。演技の方もさすがに高二でうまかったが、心の中の葛藤を十分に表現するまでは至ってなかった。効果や照明、大道具、小道具のスタッフにもうまさと経験の豊富さが感じられた。

今年の高校アカデミー賞



小フェス

もうすっかり文化祭二日目の顔となった小フェスだが、今年は例年異様なまでの盛り上がりを見せる先生の方々に比べ、コンサートの2つだけ、という淋しいものとなってしまった。まずソフトコンサートについては、大半のグループが真面目に練習して本番に

最後に観客(生徒)の鑑賞態度のことであるが、友人が夜遅くまで残って作り上げてきたのだから、しっかりと見てもらいたかった。

種類も、純日本風の父兄の方々に比べると、我々が校にひくく好男子をつかまえるためにわざわざ来校して下さった女子学生にあざわしめるものであり、中には独特の思考をもった考え出されたものもあった。

ただ、来年への課題としては、特定時間にお客が集まる模擬店がいくにそれに対応するかということであらう。昼食時には店の前に長い列ができ、なかなかお客がさげなかつた店も多少あった。利益が目的ではないけれども、せっかく

後期高校生徒会インタビュ

後期生徒会は、今から来年の文化祭改革への準備を行うと公約した今村君をはじめとするグループが信任されました。今年の文化祭の反省と、これからの方針を聞いてみました。

今年の文化祭について、生徒会として一言お願いします。今年文化祭は、みなさん御存知の通り、初の高一総務というところで、例年とは違った色々な問題が起きました。多くは、評価できます。私達2年になった時は、本年度の折折によって多少計画が実行できなかった面はあるとしても、高二の方々の協力により、何とか成功したと思います。

会長の折折は文化祭の実行に影響を与えたか。はい。特にたれた時期が6月下旬、ちょうど文化祭に向けて本式に活動を開始した矢先だったのでひびきました。もし会長がいたら、今年の文化祭は今以上の成功を上げていたと思います。

今年の文化祭における反省点を教えてください。まず最初に、公約である「革命的な文化祭」と「全員で行える文化祭」の二点が実行できなかった点です。前者の方では、ただ単に実行に際して苦勞をふやしただけではいけないという感じを多くの方が持っています。そうなるような、不十分な改革しか行えなかったのが、高2の方々に各パートの指導事項、またはそれに準ずる物を書いてもらって、私達総務に提出してもらいました。それを検討し、気づかない点や知らなかった点をカバーしていく。そういう風に、みんなをまとめること共に、連絡のとりやすいシステムを作った。そして、その前期生徒会がその最も大きな行事である文化祭がスムーズにできるようにするパイプ役ということでした。来年度の文化祭についての具体的な部分は、指導事項に



